

# 国連平和ミッションと 「統合」のジレンマ

 OSAKA UNIVERSITY  
Live Locally, Grow Globally

星野俊也

2012年11月17日

# 「立体的な統合」のニーズ

紛争後の「移行期」における活動の「統合」ニーズ

1) 平和維持・平和構築タスクの「包括性」と「統合」ニーズ

「非統合・無調整」（バラバラな活動）という実態：

主管の不在（政治局？PKO局？安保理？）・「エア・ポケット」

コスト（活動の重複/不足）・リスク（物理的危険）

2) 「立体的な統合」による「平和構築ギャップ」の克服

- 分野の統合：治安 + 人道・開発 + 政治

- 時間軸上の統合：golden time

+ 安定化 + 平和の定着 + 中長期の開発・復興

- 本部とフィールドの統合：マンドートの形成と実施

- ドクトリンの統合：軍事ドクトリン + 民生ドクトリン

- 主体間の活動の統合：役割 + 予算・人事 + 情報 + 展開場所・時間、  
など。

# 「統合」の課題とは

## 2つの課題

1) 「統合」テストを通じ、「統合」をいかに進めるか？

- 戦略：ビジョン&優先順位&計画

- リーダーシップ：事務総長特別代表 (SRSG)

+ DSRSG RC/HC + 国連カントリーチーム

+ 非国連チーム

+ 現地の政府・ステークホルダー

- 政治意思：「脆弱な三角関係」の克服：

a) 「脆弱な三角関係」安保理・事務局・加盟国 (FCC/PCC/FCC)

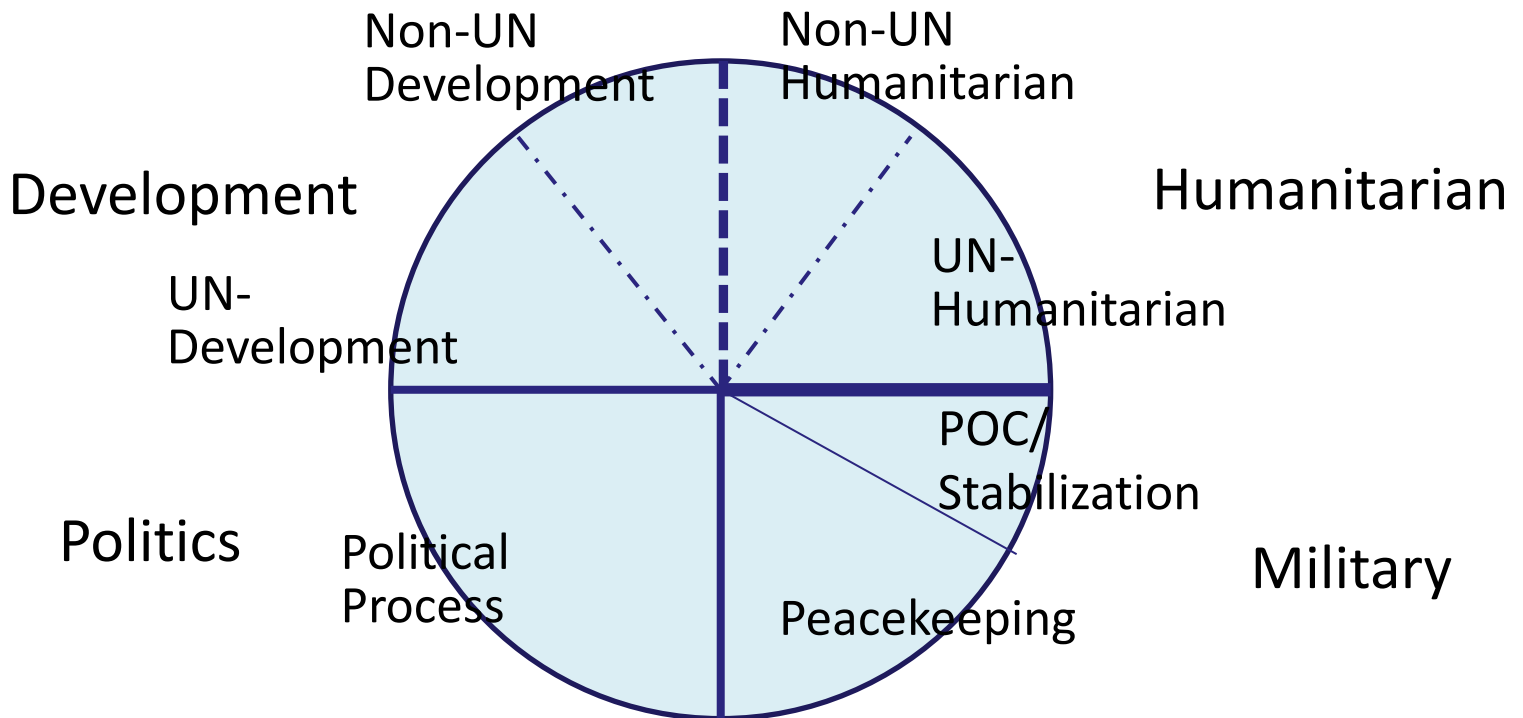
b) マンデートと資源 (要員・装備) のギャップの克服

2) 「統合」によるリスクの高まりにどう対処するか？

- 政治と人道の相互干渉への対処

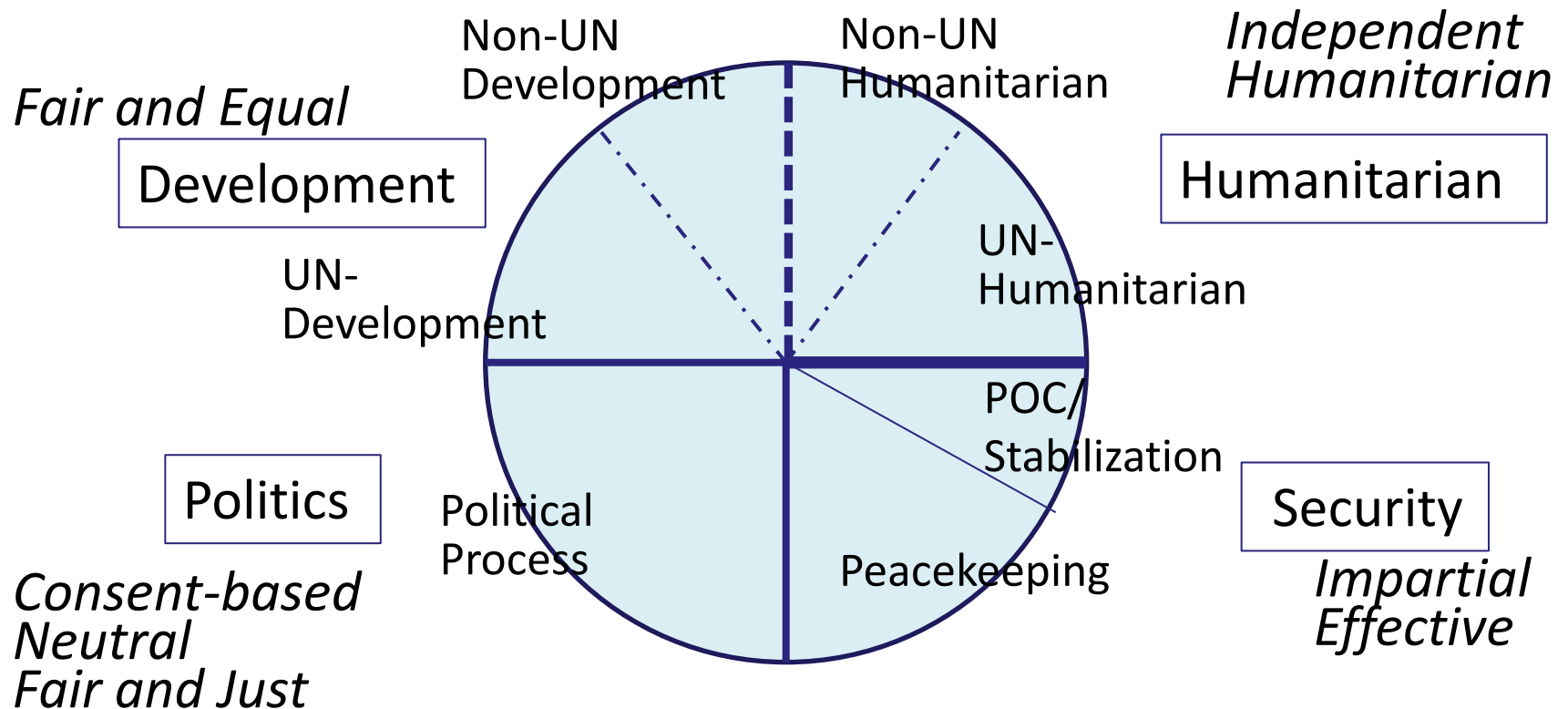
# 「統合」モデル

何を統合するのか？



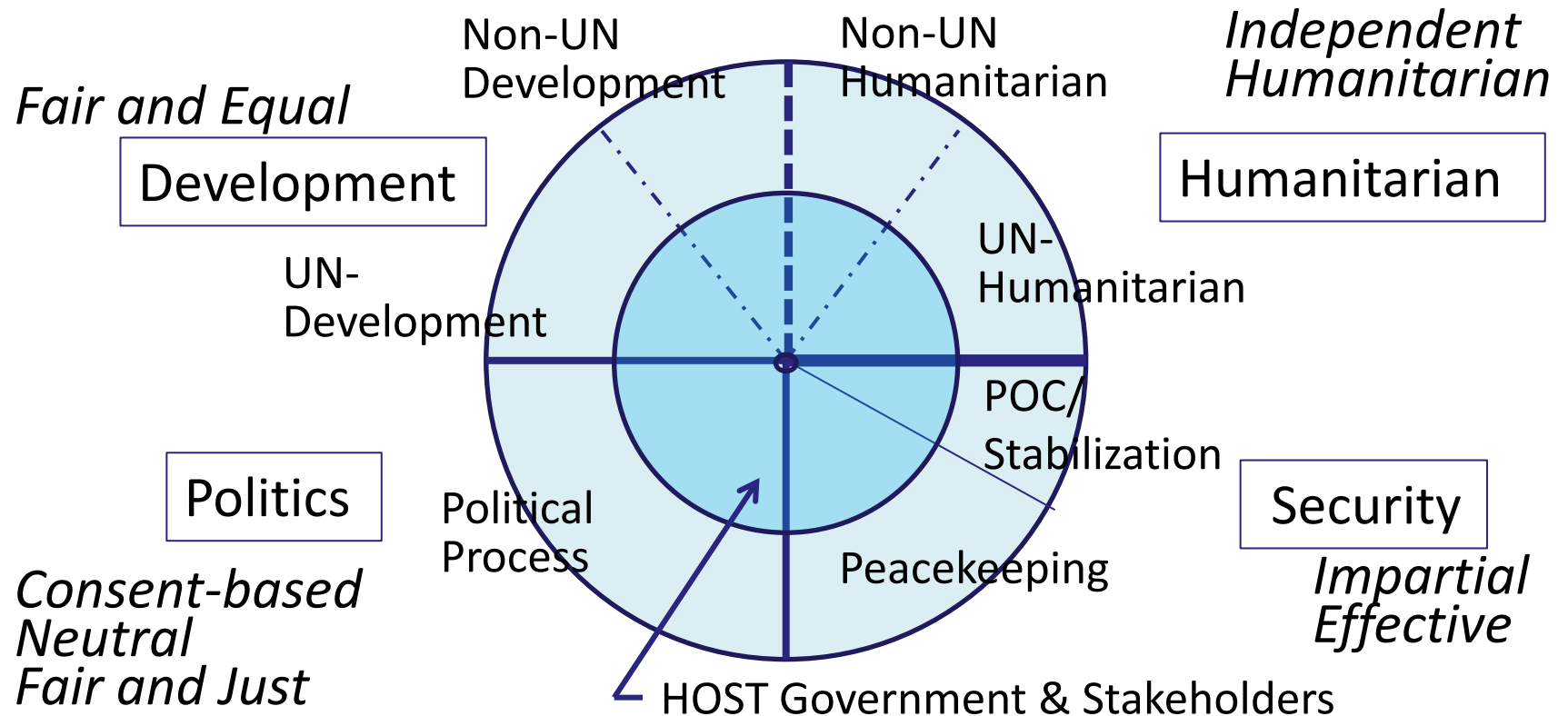
# 「統合」モデル

何を統合するのか？



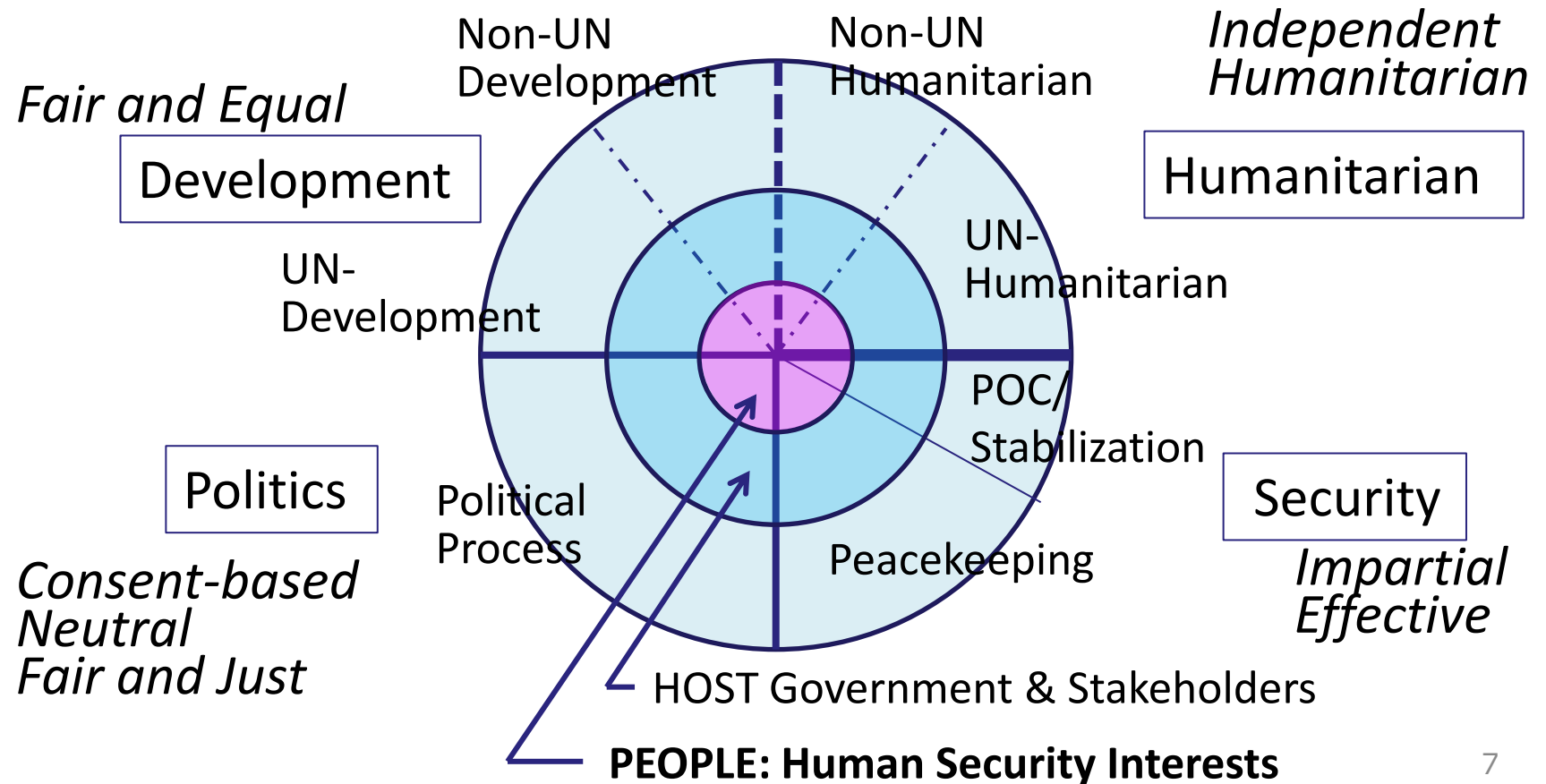
# 「統合」モデル

何を統合するのか？



# 「統合」モデル

何を統合するのか？



# 再び「統合」とは

- 「統合」に関し、
  - 手段であって、目的ではない。
    - ⇒ 「人道」原則との背馳・矛盾は本末転倒。（統合のリスク）
    - ⇒ 2つの「保護」（人道主義 vs 安全保障）の対立の超克を。



# 再び「統合」とは

- 「統合」に関し、
  - 手段であって、目的ではない。
    - ⇒ 「人道」原則との背馳・矛盾は本末転倒（統合のリスク）。
    - ⇒ 2つの「保護」（人道主義 vs 安全保障）の対立の超克を。
  - 万能ではない。類義語との区別も必要。
    - ⇒ 「システム一貫性」は「統合」と同義ではない。
    - ⇒ 「民軍協力」は「統合」と同義である必要はない。
    - ⇒ 「多機能型PKO」の見直し（原点回帰）も必要。
    - ⇒ 「過剰統合」に陥らず、「部分的統合」も有益。

# 再び「統合」とは

- 「統合」に関し、
  - 手段であって、目的ではない。
    - ⇒ 「人道」原則との背馳・矛盾は本末転倒（統合のリスク）。
    - ⇒ 2つの「保護」（人道主義 vs 安全保障）の対立の超克を。
  - 万能ではない。類義語との区別も必要。
    - ⇒ 「システム一貫性」は「統合」と同義ではない。
    - ⇒ 「民軍協力」は「統合」と同義である必要はない。
    - ⇒ 「多機能型PKO」の見直し（原点回帰）も必要。
    - ⇒ 「過剰統合」に陥らず、「部分的統合」も有益。
  - 包括的な戦略の中で目標の共有と活動の調整を。
    - ⇒ 当事者（現地の人々）の参画は不可欠。
    - ⇒ 誰のため？：「人間の安全保障」の視点の重要性。